

いせ ひでこ

2014年3月16日(日)
日比谷図書文化館
BIF 日比谷コンベンションホール

あれから3年……
絵本作家いせひでこ と観る、語る3.11。

3月11日からの絵描きの旅

11:00~12:30 ドキュメンタリー映画上映
『福島 生きものの記録 シリーズ1~被曝~』
(岩崎雅典監督作品)
13:15~15:15 ドキュメンタリー映画上映
『傍(かたわら)~3月11日からの旅~』(伊勢真一監督作品)
上映後トーク15:15~16:15
いせひでこ 3月11日からの絵描きの旅

「3.11。そこにいなかったという、
とてつもなく大きな事実は、私と風景を切断した」
——絵本作家のいせひでこさんはそう言います。
映画『福島 生きものの記録』『傍(かたわら)』を観て、
いせひでこさんと共に3.11が投げかけている問いを深める
プログラムです。
いせひでこさんにとっての生きものの記録とも言える
木々に宿るさまざまな「いのちのかたち」を、
未公開の作品やスケッチの紹介をまじえて語りおこします。



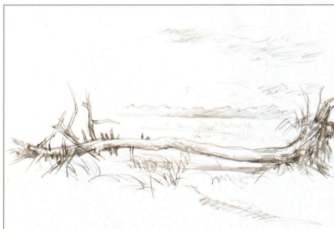
クロマツ
2013年雑誌「友4月号」『わたしの木・こころの木1章』より

主催: いせフィルム クロスフィット エンサイクロメディア 協賛: Etsai KYOWA KIRIN 篠塚整形外科 協力: MOCプロジェクト ヒポコミュニケーションズ ジオングラフィック

その木を見尽くしたい。

——いせひでこ

想像を超えた風景があるということを知った。
たとえば南相馬——
大雨の瓦礫の浜で、案内してくれた被災者が震災前の風景をどんなに話されても、
風景に追いつくことができないことが恐かった。
同じ年、異様に美しかった飯館村の緑と小学校には子どもの姿も声もなく——
だから、2012年4月、なにもかも洗い流されたような亘理吉田浜で、
根こそぎ倒れた一本のクロマツと目が会い、1年以上ずっとそこで横たわっていた木を、
迷うことなくスケッチできたことは奇跡だった。
翌年も今年も、同じ場所にクロマツに会いに行った。
皮膚は乾ききり、腕は折れ尽くし、それでも残った手と足を大地に沈ませ、
自分で自分の新しい根になろうとしているかのような姿を
えんぴつで辿りながら、思った。
クロマツが描かせていたのは、「木の尊厳」だった。
壊れた風景から世界が構築できないならば、
一本の木のいのちのかたちを見尽くすことから始めよう——その「傍」で。



2014年のクロマツ スケッチ紙より

いせひでこ 画家 絵本作家
1949年北海道生まれ。東京藝術大学卒業。
『マキちゃんの死につき』で野間児童文芸新人賞、『水仙月の四日』で産経児童出版文化賞美術賞、『ルリユールおじさん』で講談社出版文化賞絵本賞を受賞。スケッチの旅での出会いや時間を大切に。現場主義に徹した作品が多い。
最新刊は『かしの木の子もつらた』(監訳: 綿谷亮太)。



2014 **3/16 11:00** (開場10:45) 料金: 1,500円

ドキュメンタリー映画
『福島 生きものの記録 シリーズ1~被曝~』
東京電力福島第一原発事故はチェルノブイリと同じ「レベル7」。
拡散した大量の放射性物質——。生態系へどんな異変をもたらすのか?
2012年4月から警戒区域解除となった南相馬市小高区を皮切りに、浪江町の「希望の牧場」、
川内村でのアカネズミ捕獲調査、警戒区域と富岡町の離れ牛などの1年間の記録映像。
●平成25年度文化庁映画賞 文化記録映画優秀賞
監督: 岩崎雅典 (2013年/76分)



2014 **3/16 13:15** (開場13:00) 料金: 2,000円

ドキュメンタリー映画
『傍(かたわら) ~3月11日からの旅~』
東日本大震災の私的映像記録。宮城県亘理町に暮らす友人のミュージシャン、吉米地サトウの
安否を訪ね、カメラの旅は始まった。3月11日からの旅……。被災地の、被災者の傍らでの1年。
おすおすカメラを回し続けながら得た確信は、「いのち」は生きるほうへ向かうという希望。
●2012年キネマ旬報文化映画ベスト・テン第6位
出演: 吉米地サトウ、吉田圭 他 演出: 伊勢真一 (2012年/115分)



スケッチする いせひでこ(亘理町にて)

15:15 トーク
いせひでこ 3月11日からの絵描きの旅

あれから3年……。
絵本作家いせひでこが、未公開の作品や、スケッチの紹介をまじえて
語る、3.11からの絵描きの旅。

ヒューマンドキュメンタリー映画館 日比谷とは……

ヒューマンドキュメンタリーとは、温かさ・優しさだけでなく、人間のさまざまな側面が感じられる映画のことです。もっとヒューマンドキュメンタリー映画を観てほしい——という思いから、東京のど真ん中、日比谷図書文化館を映画館に見立てて上映を続けています。映像を「感じ」「思い」「考える」。そんな時間がここにあります。
<http://www.isefilm.com>

千代田区立 日比谷図書文化館

(千代田区日比谷公園1番4号)

○東京メトロ丸の内線・日比谷線・千代田線「霞ヶ関駅」
C4・B2出口より徒歩約5分
○都営地下鉄 三田線「内幸町駅」A7出口より徒歩約3分
○東京メトロ千代田線・日比谷線「日比谷駅」A14出口より徒歩約7分
○JR「新橋駅」日比谷口より徒歩約12分
※専用の駐車場はありません。
日比谷公園地下公共駐車場をご利用ください。
※上映内容についてのお問合せは日比谷図書文化館ではなく、お申し込み窓口にお願いたします。



ご予約はこちら……

FAXまたはメールにてご予約ください。

*小学生以下、障がい者の方は500円割引いたします。

FAX: 03-3406-9460

e-mail: ise-film@rio.odn.ne.jp

問合せ: TEL 03-3406-9455

いせフィルム

第15回ヒューマンドキュメンタリー映画館 日比谷 6月 開催予定!